

# 2015 年度 活動報告書

立教大学 社会情報教育研究センター



Center for Statistics and Information  
Rikkyo University

## 【目次】

1. 事業活動日誌.....	1
2. セミナー・研究会・講演会等開催および外部での報告実績.....	7
1) CSI 統計分析・活用セミナー・統計 Café.....	7
2) 統計検定・統計調査士対策セミナー.....	11
3) CSI 統計研究会.....	14
4) CSI 社会調査フォーラム.....	15
5) 共催・後援セミナー等.....	15
6) 職員向け研修協力.....	18
7) 依頼講演・講義、外部資金への応募、発表実績等.....	18
3. 資格支援事業.....	20
1) 社会調査士資格支援.....	20
2) 統計検定支援.....	23
4. 教育支援事業.....	24
1) 正課課目の開発・提供.....	24
2) 統計学習コンテンツ・ソフトウェア.....	27
3) 大学間連携共同教育推進事業.....	28
4) コンペティション・コンテンツ参加に伴う教育指導.....	30
5. 研究支援事業.....	31
1) 独自調査・分析.....	31
2) 調査研究コンサルティング.....	31
3) 統計サポートスタッフ.....	32
4) 社会調査データアーカイブ (RUDA).....	33
5) 対外連携活動.....	35
6) 統計調査員プロジェクト.....	35
6. 出版物.....	37
7. 人事.....	37
8. 社会情報教育研究センター 規程改正.....	37
9. 組織図.....	37
10. メンバー一覧および各種委員会・部会等.....	38

## 1. 事業活動日誌

2015年4月から2016年3月までにCSIが実施した事業活動について時系列で掲載する。

2015/4	1	社会調査士・CSIパンフレットガイダンス 関係学部・研究科へ配布
	2	第1回政府統計部会 定例会議
	8	第1回統計教育部会 定例会議
	9	第2回政府統計部会 定例会議
	10	社会調査士正規資格申請書発送
	13	東京都 総務局 統計部来訪
	15	第2回統計教育部会 定例会議
	21	統計検定対策ガイダンス：池袋キャンパス メーザーラーニング
	22	統計検定対策ガイダンス：新座キャンパス N233 教室
		第1回社会調査部会 定例会議
	23	第1回CSIセンター運営会議
	24	大学間連携事業：第29回JINSE運営委員会
	28	第3回政府統計部会 定例会議
		春学期 CSI統計分析セミナー（オンデマンド） 募集開始（～5/17）
	29	社会調査士実習科目概要報告書・成果物発送
5	2	大学間連携事業：第5回 質保証委員会・カリキュラム策定委員会 合同委員会
	7	第1回CSIセンター連絡会議
	12	春学期CSI統計活用セミナー：Aコース 統計学習コンテンツ紹介（池袋） 8403 教室
		第4回政府統計部会 定例会議
	13	横浜市政策部政策課 政策支援センターヒアリング
		第3回統計教育部会 定例会議
	15	依頼講演会（独立行政法人国立病院機構新潟病院 主催）：丹野学術調査員
	21	第4回CSI社会調査フォーラム 8402 教室
	24	依頼講演（市民アーカイブ多摩 主催）：高木教授
	25	第1回統計カフェ in 新座 N849 教室
	26	春学期CSI統計活用セミナー：Bコース 将来人口を推計する(POCO)（池袋） 8403 教室
		調査技法に関するコンサルティング：大橋助教（キャリアセンター教育研究コーディネーター）
	27	調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教（異文化コミュニケ

		ーション 特任准教授)
	27	調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教 (ビジネスデザイン研究科 大学院生)
		第 2 回社会調査部会 定例会議
		第 4 回統計教育部会 定例会議
6	1	IASSIST 学会出席：朝岡助教・前田学術調査員 (～6/7 アメリカ)
		社会調査士 (キャンディデイト) 資格の春学期・科目証明書申請 (～6/17)
	4	第 2 回 CSI センター運営会議
	9	春学期 CSI 統計活用セミナー：C コース 統計地図 G-Census (池袋) 8403 教室
		第 5 回政府統計部会 定例会議
	10	独立行政法人日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 (実社会対応プログラム (公募型研究テーマ))」 申請
	15	第 2 回統計カフェ in 新座 N849 教室
	16	調査技法に関するコンサルティング：大橋助教 (ビジネスデザイン研究科 大学院生)
	17	春学期 CSI 統計分析セミナーオンデマンド講座 反転学習 (新座とテレビ会議)
		第 5 回統計教育部会 定例会議
	21	大学間連携事業：連携 8 大学における統計検定団体受験 8201 教室＋8202 教室
	22	第 1 回出張講義：大橋助教 (コミュニティ福祉学部)
	23	春学期 CSI 統計活用セミナー：D コース 経済波及効果分析 (池袋) 8403 教室
	24	オープンデータ自治体サミット：政府統計部会
	26	調査技法に関するコンサルティング：坂田助教 (ビジネスデザイン研究科 大学院生)
	29	第 2 回出張講義：大橋助教 (コミュニティ福祉学部)
7	1	調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教 (ビジネスデザイン研究科 准教授)
		第 3 回社会調査部会 定例会議
	2	第 3 回 CSI センター運営会議
		第 6 回政府統計部会 定例会議

	6	第 11 回 CSI 統計研究会
	7	社会調査士（キャンディデイト）資格申請書を社会調査協会へ送付
	8	調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教（ビジネスデザイン研究科 大学院生）
	8	第 6 回統計教育部会 定例会議
	10	大学間連携事業：第 30 回 JINSE 運営委員会
	14	調査技法に関するコンサルティング：大橋助教（コミュニティ福祉学部 兼任講師）
	15	統計データ利活用セミナー打合せ（青森県統計分析課）
		調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教（文学研究科 大学院生）
	16	第 2 回 CSI センター連絡会議
	17	依頼講演（特定非営利活動法人情報公開クリアリングハウス 主催）：高木教授
	24	高校生向け統計教育セミナー（尾道北高等学校） JINSE 高大連携委員との共同開催
8	4	高校生向け統計教育セミナー（市立千葉高等学校） JINSE 高大連携委員との共同開催
	6	早稲田大学マニフェスト研究所との懇談
	7	第 7 回政府統計部会 定例会議
	11	大学間連携事業：第 31 回 JINSE 運営委員会
	20 ~ 21	自治体ヒアリング調査（兵庫県庁・神戸市役所）
	27	第 8 回政府統計部会 定例会議
9	12 ~ 15	社会調査協会：アドバンスド社会調査セミナー
	14	立教大学職員向け：統計基礎研修（担当：山口教授）
	24	第 4 回 CSI センター運営会議
	28	社会調査士（キャンディデイト）資格の秋学期・科目証明書申請（～10月16日）
	30	第 7 回統計教育部会 定例会議
10	1	第 3 回 CSI センター連絡会議
		秋学期 CSI 統計活用セミナー：A コース G-Census セミナー（池袋）8402 教室
		第 3 回統計カフェ in 池袋 メーカー・ラーニング・コモンズ

		統計調査員プロジェクト 募集開始 (～11/30)
		調査技法に関するコンサルティング：大橋助教 (ランゲージセンター 教育講師)
	2	調査技法に関するコンサルティング：坂田助教 (ビジネスデザイン研究科 大学院生)
	5	秋学期 CSI 統計分析セミナー (SPSS 統計解析 Basic コース) オンデマンドコンテンツ視聴期間開始 (～10/25)
	7	統計検定ガイダンス (池袋) メーザー・ラーニング・コモنز
		調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教 (異文化コミュニケーション研究科 大学院生)
	8	調査技法に関するコンサルティング：大橋助教 (コミュニティ福祉学部 兼任講師)
	9	統計検定ガイダンス (新座) N332 教室
	12	調査技法に関するコンサルティング：大橋助教 (全学カリキュラム 兼任講師)
	13	秋学期 CSI 統計活用セミナー：B コース 地域経済分析システム (RESAS) に基づく地域分析 (池袋) 8402 教室
	14	調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教 (異文化コミュニケーション研究科 大学院生)
		第 8 回統計教育部会 定例会議
	15	第 4 回統計カフェ in 池袋 メーザー・ラーニング・コモنز
	16	大学間連携事業：第 32 回 JINSE 運営委員会
		第 4 回社会調査部会 定例会議
	22	第 5 回 CSI センター運営会議
		調査技法に関するコンサルティング：大橋助教 (ビジネスデザイン研究科 大学院生)
		招待講演 (青森県企画政策部統計分析課統計情報分析グループ 主催)：山口教授
	26	第 1 回 CSI 統計検定対策セミナー (統計教育部会) 8304 教室
	28	秋学期 CSI 統計分析セミナー (SPSS 統計解析 Basic コース) 反転授業 太刀川第 1・第 2 会議室⇔新座 7 号館 2 階会議室
		スポーツデータ解析コンペティション 立教チーム顔合わせ 1103 教室
		第 2 回 CSI 統計検定対策セミナー (統計教育部会) 8304 教室
		第 9 回統計教育部会 定例会議

	29	統計調査員プロジェクト 東京都庁スタディツアー（キャリアセンター主催）
		社会調査士（キャンディデイト）および社会調査士（既卒者）資格申請書を社会調査協会へ送付
11	3	第9回政府統計部会 定例会議
	5	統計調査員プロジェクトガイダンス メーカー・ラーニング・commons
	6	第5回 CSI 社会調査フォーラム 12号館地下第一会議室
		第5回社会調査部会 定例会議
	10	東京都主催 統計調査員研修 8304 教室
	11	調査技法に関するコンサルティング：朝岡助教（文学研究科 大学院生）
	16	秋学期 CSI 統計分析セミナー（SPSS 統計解析 SEM コース）反転授業 オンデマンドコンテンツ視聴期間開始（～12/6）
	18	招待講演（一般財団法人日本科学時技術連盟・一般財団法人日本規格協会・日本商工会議所 主催）：山口教授
		第6回社会調査部会 定例会議
	19	第1回 CSI 統計調査士対策セミナー（政府統計部会） 8402 教室
		第6回 CSI センター運営会議
	23	第3回 CSI 統計検定対策セミナー（統計教育部会） 8304 教室
	25	第4回 CSI 統計検定対策セミナー（統計教育部会） 8304 教室
	26	第2回 CSI 統計調査士対策セミナー（政府統計部会） 8402 教室
	29	大学間連携事業：連携8大学における統計検定団体受験 N321 教室～N323 教室 新座キャンパス
12	8	秋学期 CSI 統計活用セミナー：C コース アンケート集計（池袋） 8402 教室
	9	調査技法に関するコンサルティング①：朝岡助教（ビジネスデザイン研究科 大学院生）
		調査技法に関するコンサルティング②：朝岡助教（文学研究科 大学院生）
	10	秋学期 CSI 統計分析セミナー（SPSS 統計解析 SEM コース）反転授業 8304 教室⇔新座 N8B1 教室
		第4回 CSI センター連絡会議
		調査技法に関するコンサルティング：大橋助教（ビジネスデザイン研究科 大学院生）

	17	調査技法に関するコンサルティング①：大橋助教（経営学研究科 大学院生）
		調査技法に関するコンサルティング②：大橋助教（経営学研究科 大学院生）
	18	2016年度開講予定の社会調査士科目、専門社会調査士科目の科目申請提出
	21	調査技法に関するコンサルティング：坂田助教（経営学研究科 大学院生）
	26	日本統計学会 スポーツ統計分科会セッション M201 教室
2016/1	12	RESAS ワークショップ① 共催：内閣府
	13	第7回社会調査部会 定例会議
	14	第7回 CSI センター運営会議
	15	調査技法に関するコンサルティング：坂田助教（ビジネスデザイン研究科 大学院生）
	19	RESAS ワークショップ② 共催：内閣府
	27	DDI 利用に関する勉強会（社会調査部会） 東京大学社会科学研究所
2	4	第10回政府統計部会 定例会議
	17	第8回社会調査部会 定例会議
	18	第8回 CSI センター運営会議
	23	第11回政府統計部会 定例会議
	27	大学間連携事業：統計教育大学間連携ネットワークシンポジウム「論より統計！—統計教育の改善に向けた活動—」
	29	第66回統計セミナー開催（日本統計協会・CSI 主催） 8201 教室 社会調査士指定科目証明書申請受付（池袋・新座～3/11）
3	3-13	大学間連携事業：JINSE 海外アドバイザリーボードとして Andrej Blejec 氏（国際統計教育協会（IASE）会長）を招聘
	4	大学間連携事業：JINSE 海外アドバイザリー円卓会議～JINSE の活動成果とグローバル連携に向けて～ コンテンツ収録ならびに編集（山口教授・大橋助教・小野寺学術調査員）
	5	第10回日本統計学会春季集会「会長招待特別セッション：ビッグデータとデータサイエンス人材育成」特別講演（Andrej Blejec 氏）でのコンテンツ収録・編集（山口教授・大橋助教・小野寺学術調査員）
	7-9	Andrej Blejec 氏との統計教育コンテンツ作成に関する打ち合わせとアドバイスおよび CSI の取組に関する紹介（統計教育部会）
	7	第12回 CSI 統計研究会 社会情報教育研究センター・ミーティング



		スペース
	9	第 13 回 CSI 統計研究会 社会情報教育研究センター・ミーティング スペース
		第 6 回 CSI 社会調査フォーラム 1104 教室
		第 9 回社会調査部会 定例会議
	10	第 5 回 CSI センター連絡会議
	11	大学間連携事業：統計教育大学間連携ネットワーク FD 講演会「大学 間連携共同教育推進事業における統計教育の評価」講演 (Andrej Blejec 氏)
	23	社会調査士資格申請書・変更届書提出期間 (池袋・新座～3/31)
		第 12 回政府統計部会 定例会議

## 2. セミナー・研究会・講演会等開催および外部での報告実績

### 1) CSI 統計分析・活用セミナー・統計 Café

社会情報教育研究センターでは、統計教育の普及・統計技法の高度化を目的として以下のセミナーを開催している。近年は、幅広い分野(学部生・大学院学生・教職員)からのニーズもあり、教育・研究分野における活用のみならず、卒業後、社会で実践的に統計分析を行うスキルを身に付けることができるため、高い人気を誇っている。

#### ◆2015 年度春学期 CSI 統計分析セミナー (オンデマンドにて開講)

##### ～SPSS 統計解析 (Basic コース) ～

##### 〈目的と概要〉

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析をできるレベルの操作を行う。

【開講日程】 2015 年 5 月 18 日～2015 年 6 月 12 日

【講 師】 大橋 洸太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

【登録者数】 46 名

【受講者数】 27 名

【反転授業】 2015 年 6 月 17 日 (水) (参加者なしのため不開講)

〔池袋〕 太刀川第一会議室

〔新座〕 7 号館 2 階会議室

◆2015年度秋学期 CSI 統計分析セミナー (オンデマンドにて開講)

～SPSS 統計解析 (Basic コース)～

〈目的と概要〉

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析をできるレベルの操作を行う。

【開講日程】 2015年10月5日(月)～10月25日(日)

※現在は視聴期間に期限を設けずに公開している。

【講師】 大橋 洸太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

【登録者数】 58名 ※セミナー期間内の数

【受講者数】 25名 ※セミナー期間内の数

【反転授業】 2015年10月28日(水) (参加者なしのため不開講)

〔池袋〕 太刀川第一・第二会議室

〔新座〕 7号館2階会議室

～SPSS 統計解析 (SEM コース)～

〈目的と概要〉

統計解析ソフト Amos に関する基本動作を習得し、SEM によるモデル構築と分析結果の確認を行うための技術を身に着ける。また同時に、一般的によく用いられるモデルの紹介を行い、それらの分析を通してモデル構築や評価に習熟する。

【開講日程】 2015年11月16日～2015年12月6日

【講師】 大橋 洸太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

【登録者数】 19名

【受講者数】 17名

【反転授業】 2015年12月10日(木) (参加者なしのため不開講)

〔池袋〕 8304 教室

〔新座〕 N8B1 教室

◆2015年度春学期 CSI 統計活用セミナー (池袋キャンパス開催)

〈目的と概要〉

本セミナーでは社会情報教育研究センターが提供する統計利活用のためのコンテンツを使って、公的統計学習、経済波及効果分析、統計地図の作成などを行う。

・立教版『G-Census』(統計 GIS) : 国や地域の地図を作成し、地図上に必要な統計データを表示する

- ・『総務省統計局統計学習コンテンツ（すたなび）』:公的統計データの扱い方などの基本学習が可能
- ・『公的統計総合学習コンテンツ(すたまる)』:統計学習を網羅したコンテンツ
- ・『将来人口推計分析(POCO)』:国や地域の将来人口推計を行い、人口ピラミッドの作成を行う
- ・『波及効果分析(RECO)』:東京スカイツリーの建設効果など経済波及効果の分析を行う

#### 〈A コース〉

- 【講義内容】 統計学習コンテンツ紹介（すたなび・すたまる）
- 【開催日】 2015年5月12日（火）
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8号館 8403 教室
- 【講 師】 鈴木 雄大（社会情報教育研究センター 学術調査員）
- 【参加人数】 12名

#### 〈B コース〉

- 【講義内容】 将来人口を推計する（POCO）
- 【開催日】 2015年5月26日（火）
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8号館 8403 教室
- 【講 師】 坂田 大輔（社会情報教育研究センター 助教）
- 【参加人数】 14名

#### 〈C コース〉

- 【講義内容】 統計地図 G-Census セミナー
- 【開催日】 2015年6月9日（火）
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8号館 8403 教室
- 【講 師】 小西 純（(公財)統計情報研究開発センター 主任研究員）
- 【参加人数】 15名

#### 〈D コース〉

- 【講義内容】 経済波及効果分析（RECO）
- 【開催日】 2015年6月23日（火）
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8号館 8403 教室
- 【講 師】 鈴木 雄大（社会情報教育研究センター 学術調査員）
- 【参加人数】 9名

### ◆2015年度秋学期 CSI 統計活用セミナー（池袋キャンパス開催）

#### 〈目的と概要〉

本セミナーでは社会情報教育研究センターが提供する統計利活用のためのコンテンツを

使って、公的統計学習、経済波及効果分析、統計地図の作成などを行う。

- ・立教版『G-Census』（統計 GIS）：国や地域の地図を作成し、地図上に必要な統計データを表示する
- ・地域経済分析システム（RESAS）：地方自治体が「地方版総合戦略」の立案等をする際に役立てられるシステム。「産業マップ」「観光マップ」「人口マップ」「自治体比較マップ」の 4 つで構成されている
- ・『秀吉』を使ったアンケート集計・分析』：集計ソフト『秀吉』を使って、基本集計とグラフ作成を行う

#### 〈A コース〉

- 【講義内容】 統計地図 G-Census セミナー
- 【開催日】 2015 年 10 月 1 日（木）
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室
- 【講 師】 小西 純（(公財)統計情報研究開発センター 主任研究員）
- 【参加人数】 0 名（開講中止）

#### 〈B コース〉

- 【講義内容】 地域経済分析システム（RESAS）に基づく地域分析
- 【開催日】 2015 年 10 月 13 日（火）
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室
- 【講 師】 菊地 進（立教大学 名誉教授）
- 【参加人数】 13 名

#### 〈C コース〉

- 【講義内容】 『秀吉』を使ったアンケート集計・分析
- 【開催日】 2015 年 12 月 8 日（火）
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室
- 【講 師】 菊地 進（立教大学 名誉教授）
- 【参加人数】 14 名

### ◆2015 年度春学期 統計 Café（新座キャンパス開催）

#### 〈目的と概要〉

公的統計や各種調査を身近に感じてもらい学習意欲を高めることを目的としたランチタイムガイダンス。統計初学者でも参加しやすいよう、講師が統計にまつわる身近な話題を提供する。

#### [第 1 回]

- 【テ ー マ】 西暦は統計調査に基づく！？
- 【開催日】 2015 年 5 月 25 日（月）

- 【場 所】 立教大学新座キャンパス 8号館 N849 教室  
【講 師】 櫻本 健（経済学部 准教授）  
【参加人数】 2名

[第2回]

- 【テ ー マ】 統計データから福祉を見よう  
【開 催 日】 2015年6月15日（月）  
【場 所】 立教大学新座キャンパス 8号館 N849 教室  
【講 師】 櫻本 健（経済学部 准教授）  
【参加人数】 0名（開講中止）

#### ◆2015年度秋学期 統計 Café（池袋キャンパス開催）

〈目的と概要〉

公的統計や各種調査を身近に感じてもらい学習意欲を高めることを目的としたランチタイムガイダンス。統計初学者でも参加しやすいよう、講師が統計にまつわる身近な話題を提供する。

[第1回]

- 【テ ー マ】 国勢調査について  
【開 催 日】 2015年10月1日（木）  
【場 所】 立教大学池袋キャンパス メーザー・ラーニング・コモンズ  
【講 師】 櫻本 健（経済学部 准教授）  
【参加人数】 1名

[第2回]

- 【テ ー マ】 公的統計をレポートに使ってみよう  
【開 催 日】 2015年10月15日（木）  
【場 所】 立教大学池袋キャンパス メーザー・ラーニング・コモンズ  
【講 師】 鈴木 雄大（社会情報教育研究センター 学術調査員）  
【参加人数】 3名

#### 2) 統計検定・統計調査士対策セミナー

〈目的と概要〉

本学の統計検定受験希望者に対し、統計検定と統計調査士の対策セミナーを実施している。

2015年度は春季統計検定を6月21日に、秋季統計検定を11月29日に実施した。今年

度は春学期にはオンデマンドコンテンツを公開し、受験学生への自学自習のサポートを行った。秋学期には本学学生を対象に2級・3級合同の統計検定試験対策のセミナーを4回開催した。また、統計調査士の受験者向けには試験対策を兼ねたセミナーを2回開催した。いずれのセミナーも、内容を録画し、CSI ホームページ上で公開を行い、セミナーに参加できなかった学生に対しても幅広く試験対策支援を行った。

大学間連携事業における連携大学団体受験制度との相乗効果で年々セミナー受講者が増加しており、本学における自律的な統計学習の提供機関としての役割を担いつつある。

#### 〈春季 統計検定対策ガイダンス〉

【開催日】 2015年4月21日（火）

【場 所】 立教大学池袋キャンパス メーザー・ラーニング・コモンズ

【講 師】 山口 和範（経営学部 教授）

【参加人数】 5名

【開催日】 2015年4月22日（水）

【場 所】 立教大学新座キャンパス 2号館 N233 教室

【講 師】 山口 和範（経営学部 教授）

【参加人数】 3名

#### 〈秋季 統計検定対策ガイダンス〉

【開催日】 2015年10月7日（水）

【場 所】 立教大学池袋キャンパス メーザー・ラーニング・コモンズ

【講 師】 山口 和範（経営学部 教授）

【参加人数】 18名

【開催日】 2015年10月9日（金）

【場 所】 立教大学新座キャンパス 3号館 N332 教室

【講 師】 大橋 洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

【参加人数】 6名

#### 〈秋学期 統計検定対策セミナー〉

[第1回]

【開催日】 2015年10月26日（月）

【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8304 教室  
【講 師】 山口 和範 (経営学部 教授)  
【参加人数】 18 名

[第 2 回]

【開 催 日】 2015 年 10 月 28 日 (水)  
【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8304 教室  
【講 師】 山口 和範 (経営学部 教授)  
【参加人数】 10 名

[第 3 回]

【開 催 日】 2015 年 11 月 23 日 (月)  
【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8304 教室  
【講 師】 山口 和範 (経営学部 教授)  
【参加人数】 6 名

[第 4 回]

【開 催 日】 2015 年 11 月 25 日 (水)  
【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8304 教室  
【講 師】 大橋 洸太郎 (社会情報教育研究センター 助教)  
【参加人数】 5 名

#### 〈統計調査士対策セミナー〉

[第 1 回]

【開 催 日】 2015 年 11 月 19 日 (木)  
【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室  
【講 師】 櫻本 健 (経済学部 准教授)  
坂田大輔 (社会情報教育研究センター助教)  
【参加人数】 9 名

[第 2 回]

【開 催 日】 2015 年 11 月 26 日 (木)

【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

【講 師】 櫻本 健 (経済学部 准教授)

【参加人数】 9 名

### 3) CSI 統計研究会

CSI 統計研究会は、統計実務に携わってこられた研究者や各分野で統計データを用いた先進的な研究をされている研究者や地域社会研究の第一人者をゲストに迎え、統計の現場で起こっている事や統計情報の活用をテーマに報告をしていただいた。参加者も学生、他大学からも非常に多くの関心が集まり、研究会も質の高い議論が繰り広げられた。今後も統計関係者の関心が高いトピックを中心に扱っていく予定である。

#### 〈第 11 回 CSI 統計研究会〉

【テ ー マ】 地域勘定測定の意味と限界

【開 催 日】 2015 年 7 月 6 日 (月)

【場 所】 立教大学池袋キャンパス 12 号館 第一会議室

【講 師】 二上 唯夫氏 (一般社団法人 日本リサーチ総合研究所 特別研究員)

【参加人数】 4 名

#### 〈第 12 回 CSI 統計研究会〉

【テ ー マ】 The Effect of Childcare Cost on Female Labor Supply and the Use of Childcare Service

【開 催 日】 2016 年 3 月 7 日 (月)

【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館社会情報教育研究センター・ミーティングスペース

【講 師】 萩原 里紗氏 (明海大学 経済学部 講師)

【参加人数】 6 名

#### 〈第 13 回 CSI 統計研究会〉

【テ ー マ】 GDP 速報改定の特徴と推計が抱える問題点について

【開 催 日】 2016 年 3 月 9 日 (水)

【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8 号館社会情報教育研究センター・ミーティングスペース

【講 師】 飯塚 信夫氏 (神奈川大学 経済学部 教授)

【参加人数】 4 名



#### 4) CSI 社会調査フォーラム

近年、統計的な社会調査データを用いた実証分析や統計・社会調査教育への関心が高まり、社会調査データアーカイブを通じて公開されたデータを利用した二次分析や統計教育が注目されている。こういった全体的な需要を鑑みて、CSI では2013年度より社会調査フォーラムを開催している。今年度は以下の3回のフォーラムを開催した。

##### 〈第4回 CSI 社会調査フォーラム〉

- 【テーマ】 社会調査データの探し方・使い方—データアーカイブ活用法
- 【開催日】 2015年5月21日(木)
- 【場所】 立教大学池袋キャンパス8号館8402教室
- 【講師】 前田 豊(社会情報教育研究センター 学術調査員)
- 【参加人数】 4名

##### 〈第5回 CSI 社会調査フォーラム〉

- 【テーマ】 「〇〇研究」に社会ネットワーク分析を適用すること  
—地域通貨を例に—
- 【開催日】 2015年11月6日(金)
- 【場所】 立教大学池袋キャンパス12号館第一会議室
- 【講師】 中里 裕美氏(明治大学 情報コミュニケーション学部 専任講師)
- 【参加人数】 10名

##### 〈第6回 CSI 社会調査フォーラム〉

- 【テーマ】 Easy DDI Organizer(EDO)の設計と教育利用の可能性
- 【開催日】 2016年3月9日(水)
- 【場所】 立教大学池袋キャンパス本館1104教室
- 【講師】 米倉 佑貴氏(岩手医科大学 助教)
- 【参加人数】 8名

#### 5) 共催・後援セミナー等

##### 〈社会調査協会 アドバンスド社会調査セミナー〉

専門社会調査士取得(8条規定)希望者と社会調査実務向上をめざす人のためのアドバンスド社会調査セミナーの開催協力を行った。本セミナーは、専門社会調査士(正規)の標準カリキュラムH、I、Jの3科目の内容に対応しており、大学院での専門的な社会調査法

の授業内容に相当する集中セミナーが実施された。

【日程】 2015年9月12日(土)～9月15日(火)

【場所】 立教大学 池袋キャンパス 11号館A202教室、8号館8503教室

【講師】 岩永 正也氏(放送大学)、丸岡 吉人氏(電通)、川端 亮氏(大阪大学)、  
藤原 翔氏(東京大学)、保田 時男氏(関西大学)、福田 昌史氏(読売新聞社)、  
古賀 正義氏(中央大学)

【内容】

- [第1日目] ・社会調査の目的と設計：どんな調査を何のために  
・マーケティングリサーチ：マーケティング意思決定に貢献する社会調査
- [第2日目] ・質的データの計量分析：自由回答とインタビューのコンピュータ・コーディング  
・ロジスティック回帰分析の基礎
- [第3日目] ・マルチレベル分析の考え方  
・マルチレベル分析の実際(SPSS実習)
- [第4日目] ・世論調査の現状と課題  
・質的調査の有効性と分析方法を考える

#### 〈高校生向け統計教育セミナー〉

2015年度の高校生向け統計教育セミナーは2校から高校生を招いて実施した。限られた情報を基に、限られた時間の中で判断を行う『統計的思考力』を培っていく体験型授業を行った。統計基礎力の涵養となることをめざし、今後もセミナーを実施する予定である。

[第1回]

【講義内容】 データを教育に生かす

【開催日】 2015年7月24日(木)

【場所】 立教大学池袋キャンパス 8号館8402教室

【講師】 大橋 洸太郎(社会情報教育研究センター 助教)  
丹野 清美(社会情報教育研究センター 学術調査員)

【参加人数】 広島県立尾道北高等学校の生徒・引率教諭 計6名

[第2回]

【講義内容】 統計的思考力：仮説の検証～データを活用し判断する

【開催日】 2015年8月4日(火)

【場所】 立教大学池袋キャンパス 8号館8402教室

【講師】 山口 和範(経営学部 教授)

【参加人数】 千葉市立千葉高等学校の生徒・引率教諭 計28名

### 〈RESAS ワークショップ〉

[第1回]

- 【講義内容】 RESAS の概要と操作体験
- 【開催日】 2016年1月12日(火)
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室
- 【講 師】 堀口 将志氏 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 主査)
- 【参加人数】 19名

[第2回]

- 【講義内容】 RESAS を用いたグループワーク
- 【開催日】 2016年1月19日(火)
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室
- 【講 師】 堀口 将志氏 (内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 主査)
- 【参加人数】 12名

### 〈第66回統計セミナー〉

- 【テーマ】 日本人のワークライフバランスの実態を知る～社会生活基本調査から探る～
- 【開催日】 2016年2月29日(月)
- 【場 所】 立教大学池袋キャンパス 8号館 8201 教室
- 【主 催】 財団法人 日本統計協会、立教大学社会情報教育研究センター
- 【共 催】 日本統計学会、統計関連学会連合
- 【後 援】 総務省統計局
- 【講演者】 土生 勉氏 (総務省統計局 労働力人口統計室 企画官)  
黒田 祥子氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)  
玄田 有史氏 (東京大学社会学科学研究所 教授)

### 〈統計教育大学間連携ネットワーク スポーツ統計 公開講演会

#### 第5回スポーツデータ解析コンペティション受賞者講演会〉

- 【開催日】 2016年3月11日(金)
- 【場 所】 情報・システム研究機構 統計数理研究所 大会議室
- 【主 催】 一般社団法人・日本統計学会、日本統計学会スポーツ統計分科会、情報・システム研究機構統計数理研究所
- 【共 催】 日本統計学会統計教育委員会・同分科会、統計教育大学間連携ネットワーク 高大連携委員会、立教大学社会情報教育研究センター、統計数理研

研究所共同利用（共同研究集会）「スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会、科学研究費基盤研究(C)「大規模なスポーツデータに関する統計的モデリング」、一般社団法人日本スポーツアナリスト協会

【協 賛】 データスタジアム株式会社、株式会社日本科学技術研究所

## 6) 職員向け研修協力

社会情報教育研究センターでは多種多彩な統計を学ぶセミナーを開講し大学における統計の基礎力の涵養に努めており、今回は人事課より依頼を受け、本学職員に向けた統計研修を行った。今後もこのような取り組みを実施する予定である。

### ◆統計基礎研修

【開催日】 2015年9月14日（月）午後2時～4時

【共 催】 本学人事課、社会情報教育研究センター

【場 所】 池袋キャンパス 11号館 A202教室

【講演者】 山口 和範（経営学部 教授）

【テーマ】 「統計の役割とその活用に向けて」

【対 象】 本学職員

## 7) 依頼講演・講義、外部資金への応募、発表実績等

社会情報教育研究センターでは数多くの統計データを活用し、コンテンツ作成や調査分析を行っている。その結果、官公庁や企業・団体等から出張講義・講演依頼が来る機会が増加している。また、2015年度は総務省等が主催する「オープンデータ自治体サミット」でパネル展示をし、社会情報教育研究センターの活動の紹介を行った。こうした外部での活動をつうじて、教育・研究機関として幅広い統計データを活用・普及活動を実施していることが、国内外に幅広く認知されている。これは、我が国の統計作成および普及に大きく寄与しているといえる。

さらに、社会情報教育研究センターとして外部資金への応募を行った。結果は残念ながら不採択であったが、学内外に対し研究機関としての役割をアピールする機会となった。

### 〈依頼講演・講義〉

#### ◆医療におけるコミュニケーション教育講演

【開催日】 2015年5月15日（金）

【主 催】 独立行政法人国立病院機構 新潟病院

【場 所】 独立行政法人国立病院機構 新潟病院 臨床検討会室

【講演者】 丹野 清美（社会情報教育研究センター 学術調査員）

【テーマ】 「診療プロセスにおける患者の意思決定の納得と満足：日本語版 Decision

Regret Scale に関する研究」

【対 象】 新潟病院 医療専門職

◆市民アーカイブ多摩開館 1 周年集会

【開催日】 2015 年 5 月 24 日（日）

【主 催】 市民アーカイブ多摩

【場 所】 たましん RISURU ホール

【講演者】 高木 恒一（社会学部 教授）

【テーマ】 「市民アーカイブを活用する！立教大学共生社会研究センターの歩みから」

【対 象】 一般

◆福島原発事故情報公開アーカイブ公開記念シンポジウム「福島第一原発事故とアーカイブ  
——情報を集める、共有する、見える化する。市民アーカイブの可能性」基調講演

【開催日】 2015 年 7 月 17 日（金）

【主 催】 特定非営利活動法人 情報公開クリアリングハウス

【場 所】 明治大学 駿河台キャンパス

【講演者】 高木 恒一（社会学部 教授）

【テーマ】 「市民が記録をつくる、残す、共有する」

【対 象】 一般

◆ビジネスにおける統計データ利活用セミナー

【開催日】 2015 年 10 月 22 日（木）

【主 催】 青森県企画政策部統計分析課 統計情報分析グループ

【場 所】 青森市「ラ・プラス青い森」（2 階カメラア）

【講演者】 山口 和範（経営学部 教授）

【テーマ】 「ビックデータ時代の統計学」

◆品質月間特別講演会

【開催日】 2015 年 11 月 18 日（火）

【主 催】 一般財団法人日本科学技術連盟、一般財団法人日本規格協会、日本商工会議所

【場 所】 北海道建設会館 9 階大ホール

【講演者】 山口 和範（経営学部 教授）

【テーマ】 「ビッグデータ時代に必要とされる統計的思考力」

〈外部資金への応募〉

- ◆独立行政法人日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（実社会対応プログラム（公募型研究テーマ）」

【課 題】 制度、文化、公共心と経済社会の相互連関  
【申請日】 2015年6月9日（木）  
【代表者】 高木 恒一（社会学部 教授）  
【テーマ】 「公的統計調査の質向上のための方策及びその効果、展開可能性に関する実証的研究」  
【結 果】 不採択

#### 〈発表実績〉

- ◆オープンデータ自治体サミット

【開催日】 2015年6月24日（水）  
【主 催】 総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、一般社団法人オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構、横浜市  
【場 所】 横浜港大さん橋国際客船ターミナル CIQ プラザ  
【内 容】 ・当センターの活動、松山市・東温市での調査概要等のパネル展示  
・調査報告書の配布

### 3. 資格支援事業

#### 1) 社会調査士資格支援

「社会調査士」と「専門社会調査士」の2つの資格は、いずれも一般社団法人 社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的としている。いずれの資格も、専門知識や技法を用いて世論や市場動向・社会事象等をとらえる能力を有する「社会調査の専門家」であることを想定しており、「社会調査士」は社会調査の基礎能力を有する専門家として、「専門社会調査士」はさらに高度な調査能力を身につけたプロの社会調査士と位置づけられている。

社会情報教育研究センターでは、社会調査協会に向けては立教大学全体として教育組織会員となり、学内に向けては資格支援事業の統括および一元化を行っている。また社会情報教育研究センター助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、学内各部局の科目認定申請のサポートや学生の資格取得支援を行っている。

資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科への科目認定申請のサポート事例としては、2012年度より「社会学部共通科目」を設置した社会学部に対し、改定後のカリキュラムに対応した科目認定の申請手続を遺漏なく行うべく、2015年度も当センターと学部連絡責任者との間で打ち合わせを行った。資格対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で96科目を2015年度科目として認定を受け、また2016年度の対応科目として106科目の認定申請手続と2015年度の1科目の遡及認定申請手続を2015年12月に行っ

た。

また、学生に対する資格取得支援活動としては、資格認定申請時に必要な「指定科目証明書」の発行システムを2012年度6月より当センターに全面的に移行し運用を開始した。2015年度も同システムを池袋・新座キャンパス両キャンパスにおいて活用している。これにより池袋キャンパス教務事務センターおよび新座キャンパス事務部教務課の業務負担が軽減し、さらに各キャンパスにおける学生の申請の利便性が向上した。また、システム導入による学生の証明書発行料金負担も軽減されている。2014年度より9月度卒業生（特別卒業許可者）も社会調査士申請が可能となったのに伴い、2015年度には「指定科目証明書」発行システムの改修を行い、社会調査士見込みと同時期に申請受付期間を設置した。

◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度導入学部・研究科 一覧

- ・ 全学共通カリキュラム（オンデマンド授業：社会調査士科目 A～E 科目設置）
- ・ 社会学部 全学科
- ・ 経済学部 全学科
- ・ 経営学部 全学科
- ・ 観光学部 全学科
- ・ コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・ 現代心理学部 心理学科
- ・ 大学院 社会学研究科
- ・ 大学院 コミュニティ福祉学研究科

◇資格申請者数：

社会調査士（キャンディデイト）資格取得申請： 79名（春学期20名・秋学期59名）

社会調査士 資格取得申請： 55名（2016年3月申請分）

専門社会調査士 資格取得申請： 1名（2016年3月申請分）

（2016年4月1日現在）

\*社会調査士（キャンディデイト）・専門社会調査士キャンディデイト 申請

春学期 申請期間 2015年6月1日（月）～6月15日（月）

提出期間 2015年6月2日（火）～6月17日（水）

秋学期 申請期間 2015年9月28日（月）～10月14日（水）

提出期間 2015年9月29日（火）～10月16日（金）

※専門社会調査士キャンディデイトは秋学期申請期間のみ取扱い。

\*社会調査士・専門社会調査士 申請ならびに特別卒業許可者用申請期間

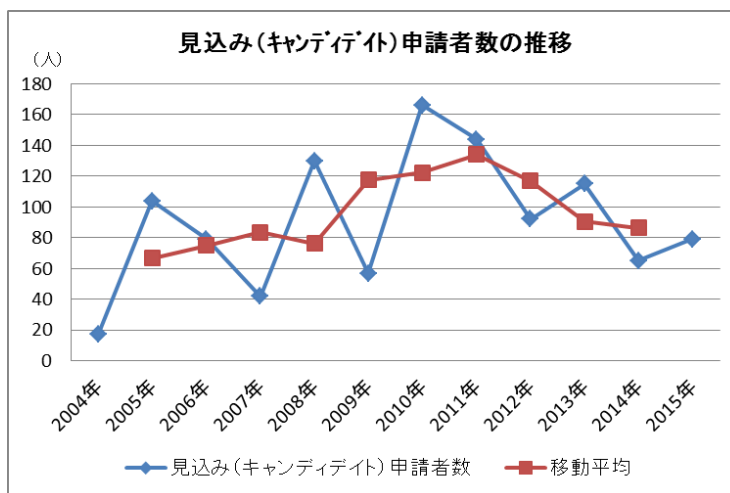
申請期間 2015年9月28日（月）～10月14日（水）

提出期間 2015年9月29日(火)～10月16日(金)  
 申請期間 2016年2月29日(月)～3月11日(金)  
 提出期間 2016年3月23日(水)～3月31日(木)

◆立教大学における社会調査士資格ならびに見込み(キャンディデイト)資格申請の推移について

【立教大学における見込み(キャンディデイト)申請者数の推移】

年度	見込申請者数	移動平均
2004年	17	
2005年	104	67
2006年	79	75
2007年	42	84
2008年	130	76
2009年	57	118
2010年	166	122
2011年	144	134
2012年	92	117
2013年	115	91
2014年	65	86
2015年	79	



\*移動平均は $(p_{y-1}+p_y+p_{y+1})/3$ で計算  
 2010年度よりCSIにて資格支援開始

【学部学科別社会調査士見込み(キャンディデイト)申請者数】

	社会学部				経済学部			経営学部		コミュニティ福祉学部	観光学部		現代心理学部	総計
	社会学科(2006年度以降入学生を含む)	メディア社会学科	現代文化学科	産業関係学科	経済学科	会計ファイナンス学科	経済政策学科	経営学部経営学科	経営学部国際経営学科	コミュニティ政策学科	交流文化学科	観光学部観光学科	心理学科	
第01回2004年12月	1		2	14										17
第02回2005年6月	29		10	50										89
第03回2005年12月	5		3	7										15
第04回2006年10月	12		5	17										34
第05回2006年12月	2		20	23										45
第06回2007年10月	7		3	8										18
第07回2007年12月	11		6	7										24
第08回2008年10月	11	4	1					4			42			62
第09回2008年12月	17	11	26					11	2	1				68
第10回2009年10月	1								1	13				15
第11回2009年12月	18		14					3		7				42
第12回2010年10月	4	4	3					1						12
第13回2010年12月	41	18	69					3	1	3	19			154
第14回2011年10月	8	2	17		1					1	15			44
第15回2011年12月	37	7	14		4		1	1		17	14	4		100
第16回2012年10月	15	3	19		10	2		2		8	6	1		66
第17回2012年12月	6	3	2			2		1		8	4			26
第18回2013年10月	10	2	9		3	1		1		15	3			44
第19回2013年12月	9	4	12		5		1	6		14	5	6		71
第20回2014年10月	9	3	4		2					16	2		1	37
第21回2014年12月	6	1	4		1				2	6	5		3	28
第22回2015年10月	6	1						1		9	1			20
第23回2015年12月	21	3	9							6			20	59
総計	286	66	252	126	26	5	2	34	7	166	74	11	35	1090

立教大学における社会調査士資格の見込み申請者数は、上記表の通り推移している。2010年度より当センターにて申請を受け付けており、学生間においても当センターの認知度は高まっている。当センターへの申請に関する問い合わせ・相談件数も増加している。また



下記の表は、2004年度から2015年度末までの、社会調査士ならびに専門社会調査士の申請者数の推移である。年度によって、申請数の増減があり、一概に傾向を読み取ることは難しいが、池袋・新座両キャンパスにおいても社会調査士資格を取得可能とする学部は増えており、全学部的に支援をおこなう機関の必要性は増していると考えられる。当センターも継続して、学部・教務との連携強化をはかり、支援体制を整えていく。

### 【学部学科別社会調査士・専門社会調査士申請者数（2004年3月～2016年3月）】

	社会学部				経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部	観光学部	現代心理学部	社会学研究科	コミュニティ福祉学研究科	総計
	現代文化学科	社会学科	メディア社会学科	産業関係学科								
第1回(2004年)				3								3
第2回(2005年)		1		6								7
第3回(2006年)	12	13		17								42
第4回(2007年)	11	33		33								77
第5回(2008年)	16	12		28						1		57
第6回(2009年)	11	13		10								34
第7回(2010年)	18	19	11	2		1	36					87
第8回(2011年)	31	26	4			8	21			1		91
第9回(2012年)	32	32	20			7	32	10		2		135
第10回(2013年)	17	39	5		4	4	35	19		2		125
第11回(2014年)	12	13	5		7	3	25	9	4	2		80
第12回(2015年)	14	14	4		9	2	26	13	11			93
第13回(2015年10月)												0
第14回(2015年12月)		1	1				4					6
第15回(2016年4月)	6	13	4		4	3	16	3	6	1		56
<b>総計</b>	<b>180</b>	<b>229</b>	<b>54</b>	<b>99</b>	<b>24</b>	<b>28</b>	<b>195</b>	<b>54</b>	<b>21</b>	<b>9</b>	<b>0</b>	<b>893</b>

※1 社会学部産業関係学科は2011年より募集停止  
 ※2 第15回については、立教大学から社会調査協会に発送した件数を計上。(2016年6月に認定数確定予定)  
 ※3 2015年度より既卒者の申請受付を開始した。

## 2) 統計検定支援

一般財団法人統計質保証推進協会主催による統計検定の実施は、2014年度より年間2回となり、2015年度は春季6月21日(日)、秋季11月29日(日)の2回実施された。

社会情報教育研究センターは2011年度より団体受験受付から統計検定対策セミナー開催など、統計検定受験に対し一元的な支援を行っている。統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけることができる。

2015年度も大学間連携事業の一環として、立教大学を含む連携8大学の学生・大学院生の団体受験者に対し、統計検定の成績データ分析に同意することを条件として、団体受験料の免除が実施された(個人情報の匿名化処理を行った上で、受験データを統計検定の改善及び統計教育に関する調査データとして分析を実施)。統計検定に合格すること自体が大学における統計教育の目的ではなく、その基礎の上に各学部の専門分野の知識を結びつけ、活用できるようにすることが肝要である。

[春季]

【実施日】 2015年6月21日(日)

【会場】 立教大学 池袋キャンパス 8号館 8201、8202 教室

	準1級	2級	3級	4級	合計
受験申込者	8	47	30	4	89
実受験者	4	29	20	2	55

※2015年度春季統計検定の合格者数のデータに不備があったため、受験申込者ならびに実受験者数のみの記載となっている。

[秋季]

【実施日】 2015年11月29日(日)

【会場】 立教大学 新座キャンパス N321、N323 教室

	1級	2級	3級	4級	統計調査士	専門統計調査士	合計
受験申込者	3	68	54	4	32	4	165
実受験者	0	42	31	2	25	2	102
合格者	0	12	21	1	5	0	39
合格率	0.0%	28.6%	67.7%	50.0%	20.0%	0.0%	38.2%

## 4. 教育支援事業

### 1) 正課科目の開発・提供

2015年度は、全学共通カリキュラムのオンデマンド授業 「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」の運営を行った。

なお、これら5科目は、社会調査士資格認定科目となっている。

#### 『社会調査入門』

【担当者】 朝岡 誠 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 前田 豊 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 91名

【授業内容】 第1講 社会調査の目的  
 第2講 社会調査の諸方法  
 第3講 社会調査の歴史：欧米  
 第4講 社会調査の歴史：日本  
 第5講 調査対象の選出方法

- 第 6 講 量的調査法の種類と特徴
- 第 7 講 質問紙調査の調査プロセス (1)
- 第 8 講 質問紙調査の調査プロセス (2)
- 第 9 講 質問紙調査の調査プロセス (3)
- 第 10 講 質的調査法の概要と種類
- 第 11 講 自由面接法の種類と方法
- 第 12 講 自由面接法の調査プロセス (1)
- 第 13 講 自由面接法の調査プロセス (2)
- 第 14 講 観察法・ドキュメント分析の調査プロセス
- 第 15 講 調査倫理と社会調査の諸問題

### 『社会調査の技法』

【担当者】 朝岡 誠 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 前田 豊 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

【授業の目標】 社会調査の技術的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

【受講者数】 64 名

【授業内容】

- 第 1 講 社会調査とは何か
- 第 2 講 社会調査の企画
- 第 3 講 調査方法を選ぶ
- 第 4 講 標本設計の方法
- 第 5 講 標本調査の実際
- 第 6 講 調査票を作る
- 第 7 講 質問文の作り方
- 第 8 講 選択肢の作り方
- 第 9 講 調査の実施
- 第 10 講 データの作成と集計・分析
- 第 11 講 質的調査の概説
- 第 12 講 フィールドワーク
- 第 13 講 インタビュー
- 第 14 講 参与観察
- 第 15 講 論文・報告書の作成

### 『データ分析入門』

【担当者】 坂田 大輔 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 鈴木 雄大（社会情報教育研究センター 学術調査員）

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 88名

【授業内容】 第1講 統計を学ぶ  
第2講 変数の性質とデータ分析の方法  
第3講 データを記述する（1）  
第4講 データを記述する（2）  
第5講 データを記述する（3）  
第6講 データを記述する（4）  
第7講 データを記述する（5）  
第8講 データを記述する（6）  
第9講 2つの変数の関連を探る（1）  
第10講 2つの変数の関連を探る（2）  
第11講 2つの変数の関連を探る（3）  
第12講 2つの変数の関連を探る（4）  
第13講 回帰分析の基礎  
第14講 擬似相関と変数の統制  
第15講 時系列データの分析

### 『データの科学』

【担当者】 坂田 大輔（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 鈴木 雄大（社会情報教育研究センター 学術調査員）

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 46名

【授業内容】 第1講 記述統計学と推測統計学  
第2講 標本抽出（1）  
第3講 確率と確率分布  
第4講 標本抽出（2）  
第5講 統計的推定（1）  
第6講 統計的推定（2）  
第7講 統計的推定（3）  
第8講 統計的検定（1）

- 第 9 講 統計的検定 (2)
- 第 10 講 2つの平均値の差の検定
- 第 11 講 分散分析
- 第 12 講 カイ 2 乗検定
- 第 13 講 3 重クロス表の分析
- 第 14 講 相関と回帰
- 第 15 講 因果への挑戦

### 『多変量解析入門』

【担当者】 大橋 洸太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

【教育コーチ】 丹野 清美 (社会情報教育研究センター 学術調査員)

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】 26名

- 【授業内容】
- 第 1 講 多変量解析とは何か?
  - 第 2 講 記述統計学と推測統計学の復習
  - 第 3 講 相関係数と偏相関係数
  - 第 4 講 重回帰分析 (1)
  - 第 5 講 重回帰分析 (2)
  - 第 6 講 重回帰分析 (3)
  - 第 7 講 二項ロジスティック回帰分析
  - 第 8 講 二元配置分散分析
  - 第 9 講 三重クロス集計表の分析
  - 第 10 講 因子分析 (1)
  - 第 11 講 因子分析 (2)
  - 第 12 講 主成分分析
  - 第 13 講 クラスタ分析
  - 第 14 講 構造方程式モデリング
  - 第 15 講 多変量解析のまとめ

## 2) 統計学習コンテンツ・ソフトウェア

大学教育における統計学習の普及・促進を目的として、2015 年度もコンテンツ作成およびソフトウェアのカスタマイズを実施した。2015 年度も引き続き、2 級を中心とした「統計検定対策セミナー」の収録を行い、自学自習用コンテンツとして「統計検定受験対策動画コンテンツ」も公開を開始した。2013 年度より「統計調査士対策コンテンツ」の公開を

全国の大学に先駆けて実施し、2015年度には第3版の作成を行った。また、CSI統計分析セミナー（春学期・秋学期実施）の収録も行い、セミナーに参加できなかった学生やSPSSの基礎学習として大きく貢献を行った。

#### 〈2015年度作成：統計学習コンテンツ・ソフトウェア一覧〉

##### ◆ 統計調査士対策コンテンツ

[https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics\\_certificate/Home.aspx#toukei06](https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx#toukei06)

統計調査士試験対策コンテンツ第3版（2015年9月）

##### ◆ e-learning 教材コンテンツ提供

e-learning教材コンテンツ「データ分析入門」・「データの科学」の作成を行い、本学およびJINSE（統計教育大学間連携ネットワーク）連携校学生向けに提供を行った。作成した講義コンテンツは、2016年度全学共通カリキュラムとしてオンデマンド授業科目として本学学生への正課科目として提供を行っていく。受講者の集中力を考え、10分以下に1つの映像コンテンツを収めるなどの工夫を行っている。

### 3) 大学間連携共同教育推進事業

#### ◆ 統計教育大学間連携ネットワークの概要

統計教育大学間連携ネットワーク（以下連携GPと略称）は、「文部科学省平成24年度大学間連携共同教育推進事業」に採択されたものである。「課題解決型人材育成のための標準的なカリキュラムコンテンツと教授法を整備し、さらに統計関連学会及び業界団体等の外部団体を加えた評価委員会による教育効果評価体制を構築することによって、統計教育の質保証制度を確立する」（連携GPホームページより引用）ために設立された。

2016年3月現在、青山学院大学が代表校となり、8大学（東京大学、大阪大学、総合研究大学院大学、青山学院大学、多摩大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学）と6学会（応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会と日本分類学会）、および8団体（大学入試センター、日本アクチュアリー会、日本科学技術連盟、日本銀行、日本経済団体連合会、日本製薬工業協会、日本統計協会と日本マーケティング・リサーチ協会）が中核となる事業を展開している。

採択の期間は、H24年度より5か年が計画されており、本取組では、社会で必要とされる課題解決力を持つ人材を育成するために、大学における統計教育の標準的なカリキュラム体系を策定し、その体系に基づく標準的な達成度評価制度を整備して、統計教育の質保証を行う。そして連携ネットワークによる認証に基づく共通単位互換制度を設ける。いくつかの連携大学では、連携ネットワークの資源を活用することにより、統計学に関する学部及び大学院レベルの副プログラムや副専攻制度を導入する。連携ネットワークには教材や評価法に関する教育資源を蓄積し、本取組の終了後には、連携校のみならず広く全国の大

学に資源を提供することにより、多くの大学で、社会が真に必要とする統計教育を実施することが可能になる。(連携 GP ホームページより引用)

◆ 統計教育大学間連携ネットワーク委員会組織について

上記の法人および団体により構成されている連携 GP は、「運営委員会」、「カリキュラム策定委員会」、「質保証委員会」、「外部評価委員会」、「高大連携委員会」、「アドバイザリーボード」(海外研究者により構成されたアドバイス提供組織)、「システム開発ワーキンググループ」と「FD 活動ワーキンググループ」を事業運営組織としている。各委員会では、個別の委員長が任命され、各委員長主導のもと、事業が展開されている。各委員会の活動報告は、代表校の青山学院大学で開催される「運営委員会」において、各委員長がおこなっている。なお先述の「FD」とは、ファカルティ・ディベロップメント=大学教員の教育能力を高めるための手段と方法のことを指す。

◆ 統計教育大学間連携ネットワークにおける立教大学社会情報教育研究センターの活動報告

立教大学も連携 GP の参加校であり、主に運営委員会、カリキュラム策定委員会、アドバイザリーボード、およびシステム開発ワーキンググループに関連する事業を、本学社会情報教育研究センター・統計教育部会および政府統計部会メンバーが担当してきた。

統計教育部会リーダー：山口和範(経営学部 教授)が主導となり、櫻本健(経済学部 准教授)、大橋洸太郎(社会情報教育研究センター 助教)、小野寺剛(社会情報教育研究センター 学術調査員)が事業運営に携わってきた。

2015 年度も、国内外から研究者を招聘したシンポジウム、講演会の開催や、統計教育や研究にかかわるワークショップを積極的に運営してきた。

各メンバーの活動概要は以下のとおりである。まず大橋助教は、連携 GP 内部に設置された「カリキュラム策定委員会」(質保証制度を確立するための日本の統計教育水準を策定する事業を展開) 統計教育のための標準カリキュラム作成のための議論を行うとともに、教材用の心理学系データを収集し、アーカイブ化を行った。小野寺学術調査員は連携 GP 内部に設置された「質保証委員会」(質保証委員会のミッションとして平成 22 年 8 月に公表された「統計学分野の教育課程編成上の参照基準」の改訂作業を行う) の委員として参加した。また年 2 回の統計検定試験の団体受験に関しても、運営及び当日の監督を行った。

このように 2015 年度の社会情報教育研究センターは、国内統計教育水準の策定に必要な多くの情報を、シンポジウム・講演会・ワークショップ・調査・報告書執筆を通して収集・公開してきた。また統計検定試験に関しても各級の合格者を継続的に輩出している。

以上の理由から立教大学は、統計教育大学間連携ネットワークの事業、および学生に対する統計教育活動に対して大きな貢献をおこなってきたものと評価できる。

参照資料 統計教育大学間連携ネットワーク HP <http://www.jinse.jp/>

◆ 2015年度海外アドバイザーボード招聘

以下の日程にて、大学間連携事業として海外アドバイザーボードとして招聘を行った。

- 【招聘日程】 2016年3月2日～3月13日 12日間（日本滞在11日間）  
【招聘者】 Andrej Blejec 氏（国際統計教育協会（IASE）会長・スロバキア統計学会会長）  
【招聘目的】 大学間連携事業における海外アドバイザーボードとしての講演活動ならびに統計教育コンテンツ作成助言の為

〈統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）海外アドバイザー円卓会議  
～JINSE の活動成果とグローバル連携に向けて～〉

- 【テーマ】 「高等教育における統計教育の変革とグローバル連携」  
【開催日】 2016年3月4日（金）  
【場所】 東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟・経済学部第3講義室  
【講演者】 Andrej Blejec 氏（国際統計教育協会（IASE）会長・スロバキア統計学会会長）

〈第10回日本統計学会春季集会～会長招待特別セッション～〉

- 【テーマ】 「ビッグデータとデータサイエンス人材育成」  
【開催日】 2016年3月5日（土）  
【場所】 東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟 第1講義室  
【討論】 Andrej Blejec 氏（国際統計教育協会（IASE）会長・スロバキア統計学会会長）

〈統計教育大学間連携ネットワーク JINSE FD 講演会〉

- 【テーマ】 「大学間連携共同教育推進事業における統計教育の評価」  
【開催日】 2016年3月11日（土）  
【場所】 同志社大学 京田辺キャンパスMK312 教室  
【講演者】 Andrej Blejec 氏（国際統計教育協会（IASE）会長・スロバキア統計学会会長）

◆ 講演ビデオコンテンツ収録および編集作業（国内出張）

大学間連携事業として3名がコンテンツ収録および編集作業の為、国内出張を行った。

- 【出張者】 山口 和範教授・大橋 洸太郎助教・小野寺 剛学術調査員  
【出張目的】 講演ビデオコンテンツ収録および編集作業  
【出張期間】 2016年3月3日～6日

※（山口：3月3～5日、大橋3月4～6日、小野寺3月4～5日）

4) コンペティション・コンテンツ参加に伴う教育指導

①統計教育部会では、日本統計学会スポーツ統計分科会が主催している「スポーツデータ



解析コンペティション」への参加を希望する学生チームの支援を行った。統計教育部会教員が担当し、データ分析の実習経験の場を提供することを目的として大きく貢献した。

②政府統計部会では、(公財)統計情報研究開発センター主催で実施する G-Census プレゼンテーション資料作成コンテストへの参加募集の促進協力、CSI 統計活用セミナーの G-Census の基本的な使い方や地域の統計地図を作成し、実践的な内容に触れることで、コンテスト参加への足掛かりとした。

## 5. 研究支援事業

社会情報教育研究センターでは、研究支援事業として ICT を活用した研究基盤の提供や調査研究コンサルティングといった研究支援を実施しており、近年は地方自治体・企業への調査分析請負など学内にとどまらず、活動の幅を広げている。

### 1) 独自調査・分析

2015 年度は、2014 年度に実施した「地方統計情報提供の現状と今後に関する調査」の集計・分析結果を HP に公表した。また、「地方統計情報提供の現状と今後に関する調査」のフォローアップ調査として自治体の統計主管部局職員に対するヒアリング調査を実施し、統計作成の現場の現状についての把握に努めた。

### 2) 調査研究コンサルティング

立教大学の大学院生や教職員を対象に、CSI は調査研究に関するコンサルティングを提供している。コンサルティング対応可能な相談内容は、社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計的分析に関する相談である。

これらのコンサルティングの多くは一回にとどまらず、その後の調査経緯も含めて複数回のコンサルティング対応を行っている。また、どの研究分野においてもデータ分析は必要不可欠であることから引き続き相談に来るケースが多い。このような統計分析に関する相談窓口が設置されたことは、研究の質向上に多大な影響を及ぼし、本学研究者における研究リテラシーの向上に繋がる。2014 年度より相談内容の分析と精査を実施しており、CSI が応談を行うべきでない相談については、別途相談や担当教員からの案内を行うこととしている。2015 年度は独立研究科の院生の修士論文に関する相談が多かった。以下、コンサルティング応談件数詳細を掲載する。

【2015 年度社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数】

相談者の所属	個人による依頼
キャリアセンター	1
コミュニティ福祉研究科	2
ビジネスデザイン科	2
ビジネスデザイン研究科	9
ランゲージセンター	3
異文化コミュニケーション研究科	2
経営学研究科	3
全学カリキュラム	1
文学研究科	7
<b>総計</b>	<b>30</b>

※2015 年度は「部署による依頼」は寄せられなかったため、掲載していない。

【社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数 年度別推移】

2010 年	11 件
2011 年	31 件
2012 年	37 件
2013 年	21 件
2014 年	22 件
2015 年	30 件

3) 統計サポートスタッフ

2015 年度よりメディアセンターと連携し CSI 統計関連セミナーでのセミナーサポート業務および図書館での SPSS などの統計ソフトウェアに関する相談業務を行う大学院生アルバイトスタッフの導入を開始した。大々的な広報活動は行わなかったものの、初年度から利用件数が 15 件あり、今後の利用頻度の拡大が予想される。また、大学院生の統計活用技術の普及にも一役買う形となっている。

【社会情報教育研究センター 2015 年度 統計セミナーサポートスタッフ応談件数】

セミナーサポート件数	12 件
統計ソフトウェア応談	15 件

#### 4) 社会調査データアーカイブ(RUDA)

名称 立教大学社会調査データアーカイブ

Rikkyo University Data Archive (RUDA)

URL <https://ruda.rikkyo.ac.jp/>

一般公開日 : 2011年4月1日

利用条件： 大学・研究機関に所属する研究者、および本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生がユーザー登録のうえ各データセットの利用申請を行うことができる。ただし、本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生の利用申請については、大学・研究機関に所属する研究者 1 名の承認を必要とする。利用目的は、社会調査データを利用した二次的分析といった研究目的、および授業での教育利用を前提とする。

立教大学社会調査データアーカイブ (RUDA) は、社会調査 (統計的調査) データを、ひろく収集・整理し、長期にわたり保管し、ひろく研究目的や教育目的の二次分析のために提供する。社会科学の個人研究者や研究者グループが実施した学術研究目的による調査データを重点的に収集しており、公開しているデータの特徴としては地域に特化した調査データが多い。データ利用・寄託促進を目的とする日本語・英語による案内リーフレットを作成し、計量手法を活用する研究者、もしくはデータアーカイブの専門家が多く参加する国内外の学会で配布を行っている。また、更なるデータ利用の促進を企図して、RUDA の利用環境の見直しを進めている。2015 年度は、東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター (SSJDA) と DDI フォーマットへの書き換えに向けた勉強会を実施した。

〈公開データセット：47（2016年3月現在）〉

公開日	調査名
2015年12月2日	「暮らしの中の多文化と政治・社会意識」についてのアンケート調査
2015年9月21日	大学生の暮らしと仕事意識についてのおうかがい
2015年5月18日	生活と防災についての市民意識調査
2014年11月26日	現代の暮らしと環境に関する調査
2014年10月10日	特殊飲食店女子組合員調査
2014年5月26日	佐久間町の地域づくりと暮らしに関する調査
2014年4月23日	第5回 地域と生活についての武蔵野市民調査
2014年4月23日	第4回 地域と生活についての武蔵野市民調査
2014年3月25日	第3回 地域と生活についての武蔵野市民調査
2014年2月17日	第2回 地域と生活についての武蔵野市民調査
2014年2月17日	地域と生活に関する武蔵野市民調査
2013年9月20日	新座市民の地域生活に関する調査
2013年8月8日	多様化する暮らしと社会に関する調査（GLOCON2010）
2013年7月5日	職業のイメージに関する調査
2013年6月18日	職業に関する意識と社会的ネットワークについての調査
2013年2月15日	地域の生活課題と住民力に関する調査 '09
2013年1月21日	社会意識に関する仙北地域住民調査
2012年12月11日	世田谷区の高齢者の生活実態調査
2012年11月13日	退職調査
2012年10月2日	暮らしと仕事についての東京住民調査(TGSS2010)
2012年9月18日	生活と防災についての市民意識調査
2012年6月12日	暮らしと仕事についての豊島区民の意識
2012年3月16日	大学生のジェンダーと子育て意識・行動に関する調査
2012年2月28日	女性の就業とサポートネットワークに関する調査
2012年2月14日	多様化する暮らしと社会に関する調査(GLOCON2007)
2012年1月20日	住みよいまちづくりと地域の国際化についてのアンケート
2011年6月28日	高校管理職者の教育と職業意識に関する全国調査
2011年6月24日	養護教諭の社会意識と教育意識に関する全国調査
2011年6月23日	教師の社会意識と教育意識に関する全国調査
2011年4月1日	社会意識に関する仙台市民調査
2011年4月1日	生活環境についての新座市民調査
2011年4月1日	生活と環境に関する仙台市民意識調査
2010年10月1日	社会意識に関する東京住民調査
2010年10月1日	暮らしと仕事に関する仙台市民調査
2010年10月1日	暮らしと教育についての仙台市民意識調査
2010年10月1日	社会意識に関する宮城県民調査
2010年10月1日	教育と友人関係に関する調査
2010年10月1日	岩手県 暮らしと人間関係に関するアンケート
2010年10月1日	パーソナルネットワークに関する地域間・都市間比較調査
2010年10月1日	都市特性と子育て支援ネットワークに関する調査
2010年10月1日	少子化と就業女性の支援ネットワークに関する調査
2010年10月1日	2007 GMFS - 10 City Survey "Quality of Life Survey"
2010年10月1日	都市生活と生活意識に関するアンケート調査（名古屋2地点調査）
2010年10月1日	都市居住と親族・友人関係に関する調査（名古屋4地点調査）
2010年10月1日	都市生活と家族に関する意識調査
2010年10月1日	名古屋都市圏調査
2010年10月1日	東京版総合社会調査「高齢・少子社会における都市居住と家族・親族関係に関する調査」

## 5) 対外連携活動

### 1) 社会調査協会

[4.資格支援事業] の [1) 社会調査士資格支援] で述べた社会調査士・専門社会調査士の2つの資格を認定する一般社団法人 社会調査協会と連携し、同協会が実施する講習事業への開催協力を行っている。具体的には、専門社会調査士（正規）の資格取得をめざす大学院生向け講習会（S 科目講習会）、および実務者向け講習会（アドバンスド社会調査セミナー）等である。2015年度はアドバンスド社会調査セミナーへの協力を行った。これらの詳細は [2.公開講演会・公開講座・セミナー等 開催実績] の [6) 共催・後援セミナー] において掲載している。

### 2) ICPSR（本部および国内利用協議会）

ICPSR（Inter-university Consortium for Political and Social Research：政治・社会調査のための大学間コンソーシアム、本部：ミシガン大学 社会調査研究所）は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブでもある。立教大学は、国内利用協議会（ハブ機関：東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター）を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

社会情報教育研究センターは、この ICPSR のデータアーカイブ機能の利用についての学内広報を担当するとともに、ICPSR 本部が実施するサマー・プログラム（セミナー）、さらには ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報も行っている。

## 6) 統計調査員プロジェクト

CSI では、東京都 総務局 統計部 産業統計課、豊島区 区民部 区民活動推進課 統計調査グループ からの協力要請を受け「統計調査員プロジェクト」を実施する運びとなり、参加学生を募集した。

本プロジェクトは「平成 28 年経済センサスー活動調査」を通じて、統計調査員（公務）の職業体験を行うもので、統計調査員は東京都知事より非常勤公務員として任命を受けるため責任のある職務を全うすることができる内容となっている。また、統計調査員としての職業体験のみならず、職場見学（スタディツアー）や統計調査員としての基礎的な知識を養い、基本的な統計学も学習するセミナー（統計調査士対策セミナー）などの「チャレンジプログラム」も用意し、学生の統計学習の推進とキャリア支援の一端を担うプロジェクトとして動きだしたものである。

【東京都・豊島区連携 統計調査員プロジェクト募集案内】

プロジェクト名	東京都・豊島区連携 統計調査員プロジェクト
募集期間	2015年10月1日(木)～11月30日(月)
募集人数	20名程度
応募対象	① 2016年6月1日時点で2～4年次に在籍する本学学生 ② 日本語を正しく理解できること(外国籍の方の場合) ③ 責任を持って統計調査員職務を遂行できること
申込方法	池袋キャンパス:社会情報教育研究センターにて、申請を行う。 新座キャンパス:10月1日(木)～10月16日(金)
主催等	主催:立教大学 社会情報教育研究センター 共催:立教大学 キャリアセンター 協力:東京都 総務局 統計部 産業統計課 豊島区 区民部 区民活動推進課 統計調査グループ
申込詳細	「東京都・豊島区連携 統計調査員プロジェクトページ」

【統計調査員プロジェクト開催イベント一覧】(2015年度開催分のみ)

	名称	実施日程	参加者数
1	プロジェクトガイダンス	2015年11月5日 昼休み	35名
2	統計Café in 池袋	2015年10月1日 昼休み	1名
		2015年10月15日 昼休み	3名
3	スタディツアー(東京都庁)	2015年10月29日 16時～	24名
4	東京都主催 統計調査員研修	2015年11月10日 6限	24名
5	統計調査士対策セミナー	2015年11月19日 6限	9名
		2015年11月26日 6限	9名
6	統計調査士試験	2015年11月29日	※1

※1:上記3.2)の統計検定[秋季]の項目を参照。

## 6. 出版物

- 社会情報教育研究センター大学院学生向けパンフレット  
2016年2月29日 700部作成
- 統計調査員プロジェクトパンフレット  
2015年10月1日 2000部作成
- 社会情報教育研究センター研究紀要（第2号）  
2016年2月29日 200部作成
- 統計検定 統計調査士試験 対策コンテンツ 第3版  
2015年9月30日 200部作成

## 7. 人事

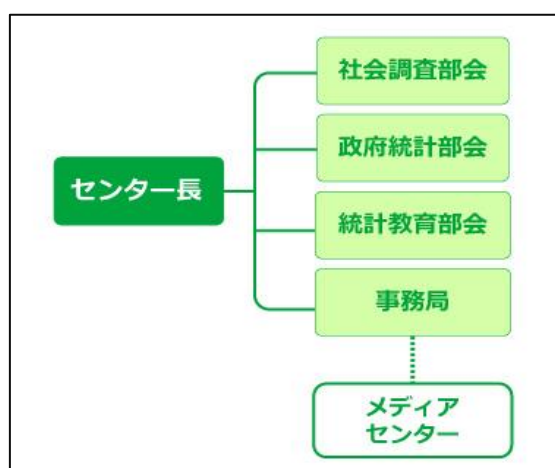
- ・嘱任（2015年4月1日）助教 坂田 大輔
- ・嘱任（2015年4月1日）助教 朝岡 誠
- ・嘱任（2015年4月1日）助教 大橋 洸太郎
- ・嘱任（2015年4月1日）学術調査員 前田 豊
- ・嘱任（2015年4月1日）学術調査員 丹野 清美
- ・嘱任（2015年4月1日）学術調査員 鈴木 雄大
- ・嘱任（2015年4月1日）教育研究コーディネーター 加藤 倫子
- ・嘱任（2015年10月1日）学術調査員 小野寺 剛
- ・退職（2016年3月31日）学術調査員 鈴木 雄大
- ・退職（2016年3月31日）学術調査員 小野寺 剛
- ・退職（2016年3月31日）助手 園 広美

## 8. 社会情報教育研究センター 規程改正

学校教育法の一部改正に伴う社会情報教育研究センター人事に関する細則の改正及び規程改正がなされた。また、研究組織としての役割も明確化するため、センター事業に関する内容を一部改正した。

## 9. 組織図

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



## 10.メンバー一覧および各種委員会・部会等

### (1) メンバー一覧

センター長 堀 耕治 (現代心理学部 教授)

政府統計部会リーダー 櫻本 健 (経済学部 准教授)

社会調査部会リーダー 高木 恒一 (社会学部 教授)

統計教育部会リーダー 山口 和範 (経営学部 教授)

#### センター員

岩崎 俊夫 (経済学部 教授)

坂田 周一 (コミュニティ福祉学部 教授)

岩間 暁子 (社会学部 教授)

松本 康 (社会学部 教授)

坂田 大輔 (社会情報教育研究センター 助教)

朝岡 誠 (社会情報教育研究センター 助教)

大橋 洸太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

#### 学術調査員

前田 豊

丹野 清美

鈴木 雄大

小野寺 剛

#### 社会情報教育研究センター事務局

毛利 立夫 (メディアセンター 課長)

重田 根見子 (メディアセンター 職員)



饒村 良司 (メディアセンター 職員)  
園 広美 (助手)  
加藤 倫子 (教育研究コーディネーター)  
荒井 美智江 (社会情報教育研究センター・業務委託)

## (2) センター委員会

堀 耕治 (現代心理学部 教授)  
櫻本 健 (経済学部 准教授)  
高木 恒一 (社会学部 教授)  
山口 和範 (経営学部 教授)  
岩崎 俊夫 (経済学部 教授)  
岩間 暁子 (社会学部 教授)  
坂田 周一 (コミュニティ福祉学部 教授)  
松本 康 (社会学部 教授)  
枝元 一之 (理学部 教授・メディアセンター長)  
井川 充雄 (社会学部 教授・教務部長)  
毛利 立夫 (メディアセンター 課長)  
重田 根見子 (メディアセンター 職員)  
饒村 良司 (メディアセンター 職員)  
園 広美 (助手)  
加藤 倫子 (教育研究コーディネーター)  
荒井 美智江 (社会情報教育研究センター・業務委託)

## (3) センター運営会議

堀 耕治 (現代心理学部 教授)  
櫻本 健 (経済学部 准教授)  
高木 恒一 (社会学部 教授)  
山口 和範 (経営学部 教授)  
毛利 立夫 (メディアセンター 課長)  
重田 根見子 (メディアセンター 職員)  
饒村 良司 (メディアセンター 職員)  
園 広美 (助手)  
加藤 倫子 (教育研究コーディネーター)  
荒井 美智江 (社会情報教育研究センター・業務委託)

## (4) センター連絡会議

堀 耕治 (現代心理学部 教授)  
櫻本 健 (経済学部 准教授)  
高木 恒一 (社会学部 教授)  
山口 和範 (経営学部 教授)  
岩崎 俊夫 (経済学部 教授)  
岩間 暁子 (社会学部 教授)  
坂田 周一 (コミュニティ福祉学部 教授)  
松本 康 (社会学部 教授)  
坂田 大輔 (助教)  
朝岡 誠 (助教)  
大橋 洸太郎 (助教)  
前田 豊 (学術調査員)  
丹野 清美 (学術調査員)  
鈴木 雄大 (学術調査員)  
小野寺 剛 (学術調査員)  
毛利 立夫 (メディアセンター 課長)  
重田 根見子 (メディアセンター 職員)  
饒村 良司 (メディアセンター 職員)  
園 広美 (助手)  
加藤 倫子 (教育研究コーディネーター)  
荒井 美智江 (社会情報教育研究センター・業務委託)

(5) 政府統計部会定例会議

櫻本 健 (経済学部 准教授)  
岩崎 俊夫 (経済学部 教授)  
坂田 大輔 (助教)  
鈴木 雄大 (学術調査員)  
小林 貴士 (リサーチ・アシスタント)  
荒井 美智江 (社会情報教育研究センター・業務委託)

(6) 社会調査部会定例会議

高木 恒一 (社会学部 教授)  
松本 康 (社会学部 教授)  
岩間 暁子 (社会学部 教授)  
朝岡 誠 (助教)  
前田 豊 (学術調査員)

(7) 統計教育部会定例会議

山口 和範 (経営学部 教授)

大橋 洸太郎 (助教)

丹野 清美 (学術調査員)

小野寺 剛 (学術調査員)

(8) 大学間連携共同教育推進事業

山口 和範 (経営学部 教授)

櫻本 健 (経済学部 准教授)

大橋 洸太郎 (助教)

小野寺 剛 (学術調査員)

以上